

平成26年度「宮崎県生涯学習審議会」議事録

日時：平成27年2月10日(火)

午後1時15分～2時50分

会場：県庁4号館 教育委員会室

審議事項「地域社会を支える人財づくりにつながる県民の学びの充実について」
～地域社会を支える人財とは～

生涯学習審議会(議事録)

議長： 現役の先生方の研修の場であった県教育研修センターに生涯学習の機能が追加されようとしている。そのため、生涯学習審議会でご提案いただいたものが、そこで動いていく場合もある。

事務局： 県教育研修センターは箱物なので予算が必要である。そのような中で、どのような形で生涯学習機能が入られるか様々な検討をしてきた。教育委員会全体の問題として検討されたことはよかったと思う。

議長： 事務局から議題に関して、このような意見をいただきたいという補足はないか。

事務局： 皆さんの立場から、地域社会を支える人のイメージについて、様々なことに取り組んでいる人とか、様々な資質がある人ということなど、広い意味での意見をいただきたい。

委員： みやざき家庭教育サポートプログラムはよい取組だと思った。私たちは団塊の世代で、年金をもらっている世代であるが、持論もあり、肩書きを外した一地域住民になるのが難しい。子育てについても昔の経験で話をしてしまいがちで、若いお母さん方に敬遠される場合がある。シニアパワーを地域で生かそうと思うと、今の現状を学ばなければならないため、研修が欠かせない。また、人権意識をもっていることが大切である。

委員： ガールスカウトの立場から、ガールスカウトの子供たちが他の子供たちを巻き込んでやっていくことはできると思う。そのような協力もできると思う。シニアの皆さんはいいものを持っているが、生かすきれない面がある。研修会の場でも経験をしていけばリーダーやトレーナーになれると思う。



委員：町づくり協議会に参加しているが、協議会に参加している人は、青少年育成協議会や地域の自治会等にも関わっている人である。ボランティアでそのような活動をしてきた人は人との関わりで喜びを感じていて、地域の中での活動ができる。地域を支える人財は、人をつなげていける力のある人である。また、チームで取りかかると地域は活性化する。



委員：町づくり協議会が北郷にできて2年目である。民生委員、児童委員、公民館長等様々な方が参加しており、協議会の方々を活用したい。また、地域づくりのために、社会教育主事の出番が大切である。さらに、キャリア教育も大切にしたいと思う。子育てに困り感をもっている保護者も多い。子供たちに、自立への基盤となる態度を育てたい。また、遠隔地にいる為、県庁のインターネット会議みたいなものがあるとよい。

委員：子育てをする上で、地域をどう活用していくか考えてきた。会社においてもメンタルの面で不調を感じてリタイアする人も多いため、自分の気持ちの伝え方等を身に付けることの大切さを感じている。また、青年期の職業選択や配偶者選択の力に結び付けていくと、自立していけると思う。

アシスト企業に勤務しており、教育支援活動を行っている。子育てをしている時には、親子劇場に入っていたが、子供たちが自分たちで異学年でいろんなことを達成していくという活動であった。最近の親と子の関わり方を考えると、親が子に伝えるべきものをきちんと伝えていないと思う。

委員：地域を支える人財には、3つの重要なポイントがある。

一つ目は、コーディネート力であり、つなげる役割をする人である。

二つ目は、フレキシブルな発想、柔軟的な発想も持った人である。

三つ目は、発信できる人である。情報を持っているだけではだめだと思う。

三つの力がある人が、地域社会を支える力がある人財である。社会教育主事はコーディネート力やフレキシブルな発想もあり、それを活用できていないことが問題である。各地域におけるキーマンとなる人をつくっていくことや仕組みづくりが必要である。

委員：キャリア教育プログラムについては、教育現場と民間の考え方はかけ離れている。私がプログラムをつくる時には、手作り体験だけでは物足りないと思い、いろいろな本を読んで調べた。プログラムを行う際は、中期的にはシニアに入ってもらい、長期的には、学生に入ってもらうことがよいと思った。学生に入ってもらうことで宮崎を盛り上げることができると思う。長期的には学生に入ってもらい、若い世代を育てていくという考え大切だと思う。

議長： キャリア教育はよく耳にする言葉だが、遅れている面がある。高等学校のキャリア教育では、進学校では公務員や会社員、学校の先生など、将来の職業のことだと思っているが、実業系の学校だと例えば放送局でも音響からディレクターから、アナウンサーから様々な職種があるように、職種を知って選ぶことができるというようなとらえ方をしている、大きく違っている。

委員： 地域社会を支える人物とは、孤独な人、一人ぼっちになっている人に、手を差し伸べ、声をかけることができる人ではないかと思う。私の知っている事例でまわりの人に相談すれば被害に遭わないですむようなトラブルに巻き込まれたケースがあった。高齢者や生活保護を受けているような人など、サポートプログラムにも出てこれないような一人ぼっちの人や孤独な人に声をかけ、手を差し伸べることができる人が地域社会を支える人だと思う。



委員： 私の会社では、地域取材する番組がある。私の会社は地域に根差した会社であり、宮崎を愛し、宮崎の人に愛される企業でなければならない。そこで、地域取材する番組では各社員が各市町村の担当になって取材をした。地域を、宮崎を誇りに思わなければ、外には出て行けないと思う。「宮崎っていいよね、宮崎って楽しいよね」と明るくならないと教育に結びついていかない。宮崎について勉強すると、宮崎には素晴らしい企業、誇れる企業がたくさんあることが分かった。宮崎が好きな人、宮崎を誇りに思う人がたくさん出てきて、みんながつながっていけば、それが地域づくりにつながっていく。

委員： 私も宮崎が大好きにならなければならないと思うし、児童生徒は学校や先生が大好きであって欲しい。私は会社が好きである。そうなれば、それを見ている後輩たちも会社は楽しいところだなとか、いい会社だなと思えるようになる。また、お客さんも喜んでくださると思う。私たちは子供から大人までいろんな人を相手に学んでいる。いろんなことを言われる場合があるが、私たちはそこから学んでおり、勉強の場になっている。インターンシップの生徒にも、御挨拶のリハーサルとしてお客さんの見送りなどに取り組ませている。

委員： 夏休みの子供たちの地区登校の際に、凧作りの指導者を紹介した。凧作りや凧揚げの様子を見たが、地域の方も子供も生き生きとしていた。

また、子ども会の組織率も下がっている中、昨年、西都市で行われた県子連の育成大会に参加した。この時にステージ上で西都市のある子ども会の定例会が行われた。上級生から下級生まで役割が決まっていて、今月の目標を読み上げ、話し合いをし、決

まったことをしっかり紙に書いていた。活動においては上級生が下級生にしっかりアドバイスをしていた。このような活動は、町づくりにもつながるし、リーダーの育成が行われていると思った。そのような活動がどこでも行われると、子供たちが青年期になっても循環していくと思う。

委員：生涯学習に係る2つの言葉を紹介したい。

一つ目は、「生涯学習は自分という先生が自分という生徒を指導する学習だ。」という言葉である。先生になるためには地域社会はどうなっているか、よいところは何か、大切にしなければならないことは何なのかなどを知らなければだめだということだと思う。



二つ目は、「批判すれど創造できない人はだめだ。」という言葉である。批判は誰でもできるが、こうすればよいという意見が言えなければだめだということだと思う。そういう視点で今後も生涯学習に携わっていきたい。

議長：今日は社会の人財が埋もれていて活用できていないという意見や、ガールスカウトの団員を活躍させていただくという意見、また、キャリア教育等についての意見もいただいた。

委員：キャリア教育と子育てはバッティングする時があると思う。キャリア教育は自分を育てていくことであり、親は親自身としての役割をしっかり果たすことが必要である。また、そのことが分かっているなければならない。子供を育てることがキャリア教育にプラスにならないといけない。それが、循環していくようにする必要がある。

議長：子供が育つ地域の学びの場について、結果的には親が学ぶことでうまく循環していけばよいということだと思う。